

松本障害保健福祉圏域自立支援協議会 部会・プロジェクト議事録

|   |   |
|---|---|
| 部会・プロジェクト名<br><br>地域移行部会  | 開催日：令和3 年4 月21 日（水）<br>時 間：13:30 ～ 15:00<br>場 所：梓川公民館 |
| 参加者構成機関名：松本市障害福祉課、塩尻市福祉課、安曇野市福祉課、麻績村住民課(欠)、朝日村住民福祉課、松本保健福祉事務所福祉課、松本保健福祉事務所健康づくり支援課（欠）、基幹相談支援センター、総合相談支援センターWish、アルプス学園、あいサポート、ハートラインまつもと、村井病院（欠）、 |   |
| 次第： 1、自己紹介 2、自立支援協議会について 3、令和2年度の振り返り 4、今年度について 5、その他   |   |

会議内容

1 自己紹介

2 自立支援協議会について説明（事務局より資料）

3 令和2年度事業振り返り及び令和3年度事業計画について（資料を基に協議）

- ・今年度も新型コロナの影響は不透明。Zoomでの部会も検討（基幹または中信社協がホスト）

4 その他：地域移行の取り組みで課題と思えること、事例等自由発言

<ご家族の気持ち>

- ・長期入院のお子さんに退院の話、「放り出されて困る」と訴えるご家族（お子さん50代、親御さん80代）
- ・入院や入所は安心できるが地域生活は不安。ご家族に地域生活支援の情報が届いていない。
- ・情報を得ても既存のサービスで大丈夫と思えない。既存のサービスに隙間がある
- ・ご家族にはご本人の症状が強かった時のイメージが残っている。
- ・精神医療のみならず子が成人していても親の責任を問う社会状況が背景にある。

<アセスメントのあり方>

- ・入院/入所時のアセスメント重要。
- ・退院/退所時、ご本人が急いでもアセスメントの時間は大切。
- ・なぜ、何が不安か、家族のアセスメントも大事。
- ・アセスメントで地域を整える。環境設定が大事。実績を積み上げること。
- ・救護施設からの退所希望者、周囲は難しいという（自閉症、アルコール依存症、解離性障害）成功体験の少ない方。アセスメントを長期間するため地域移行支援を利用。
- ・アセスメントの方向によって支援者が地域移行をおしとどめないように。

<支援の課題>

- ・病院のルールと地域社会のルールの違い。伝え方の難しさがある。
- ・ご利用者の特性を支援者は知っていても地域の方々は知らないことがある。
- ・トライアル&エラーを繰り返し少しずつ地域で暮らす時間が長くなることも。
- ・しかし、そのような支援をする余裕が制度のしくみにない。

<事例：退院後グループホームでの生活を始めた方>

- ・退院先のグループホームで、体験利用の際にはなかった行動（大量飲酒等）に支援者が戸惑う。
- ・主に知的障がいの方を支援してきたところに精神障がいの方を受け入れた難しさ。
- ・初めて福祉サービスに繋がった方で、長く支援者が関与してきた方との違いがある。
- ・もともと一人で暮らしていた方で、これまでの情報が少ないが、病院に尋ねても医師からは「あなたたちが（病院から）出せと言ったのではないか」と返される。
- ・ご本人、ご家族、支援者、主治医、意向のすり合わせが難しい。

ご本人はグループホームの暮らしに満足

ご家族はなんとしてでもご本人をグループホームに置いてほしい

支援者はアパートでのひとり暮らしの方が適しているのではないかと考える

<指定一般相談（地域移行・定着支援事業）について>

- ・地域移行支援事業は特定の法人だけが実施する事業と思われていた事例から、本事業をよりよく活用するため、事業の存在と利用方法等を広く周知していく必要がある。

<支援の方向・考え方>

- ・支援者はいろいろなカードを持っている事、経験を積むことが大事。
- ・移行先が自宅であろうが施設であろうが、その方がその方らしく暮らせる場所に導くこと。
- ・失敗したとしても取り組みが大事。
- ・ご本人の行動には支援者が把握していないだけで理由がある。
- ・支援者は諦めないこと。

次回 開催日時：令和3年7月頃（後日調整）

内容：地域移行に関するリーフレット改訂案について

（次回までにリーフレット改訂検討チーム会を開催）

精神科病院と地域の支援者との意見交換会について検討